

予防接種について

《 B型肝炎 》

金沢市の乳幼児期に受ける定期予防接種

(2020年10月1日現在)

乳幼児期の予防接種		受ける時期と接種回数	ワクチン種別
ロタウイルス	ロタリックス	出生6週0日後から24週0日後まで(初回接種については、標準として生後2か月から出生14週6日後まで)に27日以上の間隔を置いて2回経口投与	生ワクチン(経口)
	ロタテック	出生6週0日後から32週0日後まで(初回接種については、標準として生後2か月から出生14週6日後まで)に27日以上の間隔を置いて3回経口投与	
Hib (インフルエンザ菌b型)	初回	【標準的な接種パターン】 生後2か月～7か月の前日までに接種開始の場合 初回: 27日(医師が認める場合は20日)以上(標準として27日～56日)の間隔をあけて2回接種(生後12か月の前日までに完了) 追加: 初回3回終了後、7か月以上(標準として7か月～13か月)あけて1回接種(注)	不活化ワクチン
	追加	【標準的な接種パターン以外の場合】 ①生後7か月～1歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回: 27日(医師が認める場合は20日)以上(標準として27日～56日)の間隔をあけて2回接種(生後12か月の前日までに完了) 追加: 初回2回終了後、7か月以上(標準として7か月～13か月)あけて1回接種(注) ②1歳の誕生日～5歳の誕生日の前日までに接種開始の場合: 1回接種	
小児用肺炎球菌	初回	【標準的な接種パターン】 生後2か月～7か月の前日までに接種開始の場合 初回: 27日以上の間隔をあけて3回接種(生後24か月(標準として生後12か月)の前日までに完了) 追加: 初回3回終了後60日以上の間隔をあけて、生後12か月以降に(生後12か月～15か月の前日までを標準的接種期間として)1回接種(注)	不活化ワクチン
	追加	【標準的な接種パターン以外の場合】 ①生後7か月～1歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回: 27日以上の間隔をあけて2回接種(生後24か月(標準として生後12か月)の前日までに完了) 追加: 初回2回終了後60日以上の間隔をあけて、生後12か月以降に1回接種(注) ②1歳の誕生日～2歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 60日以上の間隔をあけて2回接種 ③2歳の誕生日～5歳の誕生日の前日までに接種開始の場合: 1回接種	
B型肝炎		1歳の誕生日の前日まで(標準として生後2か月～9か月になるまでに)に27日以上の間隔を置いて2回接種した後、1回目の接種から139日以上の間隔を置いて1回接種	不活化ワクチン
ジフテリア 百日せき 不活化ポリオ 破傷風 (DPT-IPV)	1期初回	生後3か月～90か月(7歳6か月)の前日までに 初回: 20日以上(標準として20日～56日)の間隔をあけて3回接種	不活化ワクチン
	1期追加	追加: 1期初回(3回)終了後、6か月以上(標準として1年～1年半)あけて1回接種	
BCG		1歳の誕生日の前日まで(標準として生後5か月～8か月になるまでに)に1回接種	生ワクチン
麻しん 風しん (MR)	1期	生後12か月～24か月(2歳の誕生日の前日)までに1回接種	生ワクチン
	2期	小学校就学前1年間(幼稚園等の年長さん相当の年齢)にある間に1回接種 ※別途個別に通知します。	
水痘		生後12か月～36か月(3歳の誕生日の前日)までに3か月以上(標準として6か月から12か月まで)の間隔をあけて2回接種 ※1回目の標準的な期間は、生後12か月から生後15か月になるまでです。	生ワクチン
日本脳炎	1期初回	生後36か月(3歳※)～90か月(7歳6か月)の前日までに ※標準的な接種開始時期は3歳です。生後6か月から接種可能です。	不活化ワクチン
	1期追加	初回: 6日以上(標準として6日～28日)の間隔をあけて2回接種 追加: 1期初回(2回)終了後、6か月以上(標準としておおむね1年)あけて1回接種	

(注) Hibワクチンおよび小児用肺炎球菌ワクチンは、接種開始月齢等によって接種回数が異なります。接種回数、間隔などは接種医とよくご相談ください。その他、任意予防接種として、おたふくかぜ、インフルエンザなどがあります。

B型肝炎とは？

B型肝炎ウイルス(HBウイルス)の感染を受けると、急性肝炎となりそのまま回復する場合もあれば、慢性肝炎となる場合もあります。また、症状としては明らかにならないままウイルスが肝臓内部に潜み、年月を経て慢性肝炎・肝硬変・肝がんなどになることがあります。感染はHBウイルス(HBs抗原)陽性の母親から生まれた新生児、HBウイルス陽性の血液、体液に直接接触したような場合、HBウイルス陽性者との性的接触などで生じます。ワクチンを接種することで、体の中にB型肝炎ウイルスへの抵抗力(免疫)ができます。免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、まわりの人への感染も防ぐことができます。

B型肝炎ワクチン

B型肝炎ワクチンによる予防は、ことに小児の場合は肝炎の予防というよりウイルスの持続感染を防ぎ、将来発生するかもしれない慢性肝炎・肝硬変・肝がんを防ごうとすることが最大の目的です。

1歳の誕生日の前日までに3回接種します。27日以上の間隔を置いて2回接種した後、1回目の接種から139日以上の間隔を置いて1回接種します。標準的には生後2か月に達した時から生後9か月に至るまでの期間に接種を行います。(生後2か月以降に1回目、生後3か月に2回目、生後7～8か月に3回目の接種を行います)

※母子感染予防としてB型肝炎ワクチンを受けたお子さんは、定期予防接種の対象とはなりません。

副反応

主なものは、倦怠感や頭痛、局所の腫脹、発赤、疼痛等があります。一般的には重大なものは認められませんが、極めてまれに、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎などの重い病気にかかることがあるといわれています。

周知方法

個別通知

接種場所

予防接種協力医療機関

接種時期

通年